



早瀬さん（66 歳）
外出することが楽しみです

数が多いし、エレベーターの扉は長く開いてる。こうした利用しやすい場所を増やしてほしいから、私たちがどんだん外に出て、使ってみて、私たちなりの声を出さないといけない。そしてまたみんなが外に出やすくなって、この繰り返し。でも、施設が便利になっても、まだ障害者の駐車場に一般の車が停めてある。確かに入口の近くにあつて、使つてなかったらもつたない気もするけど、私たちはどうしても車の乗り降りにドアをいっぱいに開けないといけない。だからあの広いスペースが必要なの」

いろんな人がいて、 いろんな気持ちがある

「友人と食事をするのに、毎回同じ店を選ぶ人がいて。そこは段差がある店で、友人にとつたら『車椅子』とかいたらすむ』と思うかもしれないけど、かかる側の気持ちをわかってくれるのかな？ 恥ずかしい気持ちもあるし、余計な気を遣わせたくない。できないことはたくさんあるけど、本当は気を遣わせたくないんよ。世の中には、いろんな人がいて、いろんな気持ちがある。みんな障害者のことが分からないと言うけど、だか

らこそ、みんなと同じように声をかけてほしい。関わらんとわからないのと違うかな」

関わってくれる人が いるということ

「車椅子生活になったばかりのころは、死にたいと思うこともあつたんよ。それでも前向きになれたのは、いろんな人が関わってくれたから。今年一番感動したことはね、お城山に登ったこと。スロープがあるからみんなで行こうって同級生が誘ってくれて。実際に行ってみたら何も役に立たないスロープだっ

たけど、みんなが支えてくれて登れたんよ。『仲間がいる』大切さと温かさが身にしみたよ。ずっと前に息子に言われた言葉も忘れられない。『お母さんは障害という言葉に逃げとる』って。その時はほんとにショックだった。でも今考えたら、私を甘やかしたらいかんっていう、息子の最高の愛情だったんだって感謝してる。あの言葉があったから、前向きになれた自分があるんじゃないかな。障害を隠したってしょうがないし。小さくなつて生きるより、前を向いて、いろんな人と関わって楽しく生きるほうがいいよね」